

- |  |    |
|--|----|
| 1. 自然との交感に安らぎ、心の世界とものの世界が一体不可分で、全体の調和や直感を重視するといった文化的特色に、決定的な影響を及ぼした日本の風土。          | 1  |
| 2. 神道・仏教・キリスト教の共存などに見られる日本の文化的特色。  | 2  |
| 3. 外来文化を受容し、宗教的迫害や正統・異端の争いが少ないことなどに見られる日本の文化的特色。                                   | 3  |
| 4. 自然の事物や自然現象に靈魂（アニマ）が宿っていると考える思想。   | 4  |
| 5. 多種多様の形態をもち、悪（罪<ツミ>とされる災厄などの背後にあるもの）の面も備えた日本の神々を総称したもの。                          | 5  |
| 6. イザナギとイザナミの娘で、日本神話の中心的な神。太陽を神格化。   | 6  |
| 7. 日本神話の国生みの男女二神。  | 7  |
| 8. アマテラスの弟。神々の世界で暴れたため出雲国に追放され、ヤマタノオロチ（八俣大蛇）を退治してその地を治めた流浪の神。                      | 8  |
| 9. 日本の神々の世界。天の国。   | 9  |
| 10. イザナギとイザナミが生んだ人間の住む地上の国。  | 10 |
| 11. 日本神話の死者の靈魂が行く国。「根の国」とも。地下の国。   | 11 |
| 12. 古神道（こしんとう）の祭神の一つで、祖先神。   | 12 |
| 13. 古神道の祭神の一つで、土地神。郷土愛につながる。   | 13 |
| 14. 仏が本地（本来のもの）として日本の神々に垂迹（仮の姿をとる）しているとする考え方。                                      | 14 |
| 15. 仏を日本の神々の上位に置くことに反発（反本地垂迹）して、鎌倉末期（13世紀頃）に創始された神道。                               | 15 |
| 16. 純粹さと公共心を重視した心の持ち方。濁心（きたなきところ）を「いつわりの心」として否定し、私心（わたくしごころ 利己心）を捨てた状態。            | 16 |
| 17. 人や社会に不幸をもたらすもの。犯罪や病気・天災など。   | 17 |
| 18. ツミ（罪）を洗い清めること。   | 18 |
| 19. 不浄や醜さを感じ覚的に罪悪視する考え方。ツミ（罪）と同一視される。  | 19 |
| 20. <b>PERSON</b> 19・20世紀、日本民俗学の創始者。主著は『遠野物語』。                                     | 20 |
| 21. <b>PERSON</b> 19・20世紀、民俗学を日本文学や古典芸能の研究に応用。歌人として <small>しやくちやうくう</small> は釈 迢空。 | 21 |

T. Q. 「日本古来の自然観や人間観とは？」

T. A.

日本の温和で恵みに満ちた自然を受け入れ調和することから、自然崇拜の多神教が生まれ、祖先神（氏神）と郷土愛の産土神による古神道や、本地垂迹説といった考え方（ただしこれは仏を神の上位とする）へと発展した。人間観においては、私心を去り全体のために尽くす清明心を重んじ、ツミをミソギやハライで洗い清めるという観念があった。